

土壌診断結果表

【基本分析】

①pH(水):土が酸性かアルカリ性かを見る指標です。

②pH(KCl):pH(水)の値との差は、土中の交換性塩基の量が適正かどうかの目安となります。その差は1.0前後が望ましいです。

③EC:塩類がどのくらい溜まっているかの指標です。硝酸態窒素のほか、カリ・苦土・石灰がたまっても高くなります。

④窒素:北海道の基準に則り、水田は「湛水培養窒素」、露地作物は「熱水抽出窒素」、ハウス作物は「硝酸態窒素」を測定しています

⑤リン酸:水田・牧草のみ「ブレイン2法」、その他は「トルオーグ法」の値を載せています

⑥カリ・苦土・石灰:この3つは、どれか1つが多すぎると拮抗作用が起きてしまい、他の2つが吸収されにくくなります。比をみるのもそのためです。

【特別分析】

⑦CEC:土がどのくらい交換性塩基を保持できるかという目安です。20前後が標準的です。

⑧塩基飽和度:土がどのくらい交換性塩基を抱えているかの割合です。CECと塩基の量から割り出します。CECを分析していない場合、仮に20として算出しています。

⑨腐植:土中の有機物の量です。これが多いとCECが高まる傾向にあります。また、物理性も改善されます。

⑩ホウ素:微量元素の一つ。アブラナ科やてんさいはとくに好みます。

⑪ケイ酸:特に水稲はケイ酸を好むので重要です。

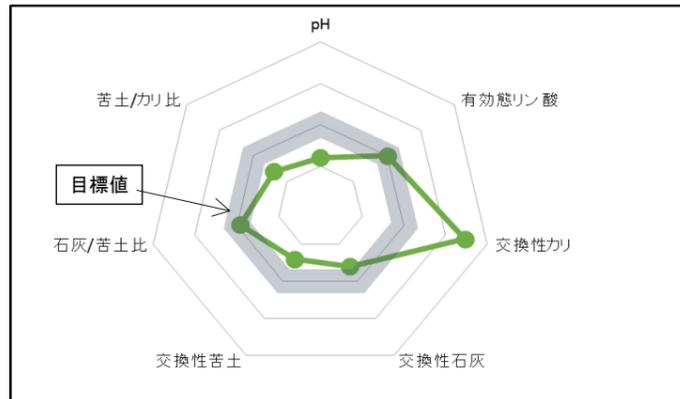
⑫リン酸吸収係数:これが高いと、土がリン酸を固定してしまい、作物がリン酸を有効に使いにくくなります。

| | | | |
|---------|--|----------|--|
| ご依頼者氏名: | | 土壌採取日: | |
| 市町村: | | 地帯区分No: | |
| 担当者氏名: | | は種(定植)日: | |
| 圃場No: | | サンプル名: | |

【基本分析】

| | 分析値 | 基準値 | 適不適 | |
|---------|--------|---------|---------|----|
| pH | ①(水) | 5 | 5.5~6.5 | 低い |
| | ②(KCl) | 4.2 | - | - |
| ③EC | 0.1 | - | - | |
| ④窒素 | 6 | - | - | |
| ⑤有効態リン酸 | 20 | 10~30 | 適正 | |
| 交換性カリ | 30 | 15~30 | 適正 | |
| 交換性石灰 | 300 | 170~350 | 適正 | |
| 交換性苦土 | 40 | 25~45 | 適正 | |
| 石灰/苦土比 | 5.4 | 2~6 | 適正 | |
| 苦土/カリ比 | 3.1 | 2以上 | 適正 | |

※石灰の基準値はCECと相関があるため、CEC値がない場合、標準的なCECとして算出しています。



【特別分析】

| | 分析値 | 基準値 | 適不適 |
|-----------|-------|---------|-----|
| ⑦CEC | 20 | 20以上 | 適正 |
| ⑧塩基飽和度 | 66.76 | 60~80 | 適正 |
| ⑨腐植 | | | |
| ⑩ホウ素(ppm) | | 0.5~1.0 | |
| ⑪ケイ酸 | | - | |
| ⑫リン酸吸収係数 | | - | |

| | | | |
|-------|--|------|--|
| 作物: | | 土性: | |
| 品種: | | 土壌型: | |
| 有機物施用 | | 前作物: | |

(t)

【分析値に基づいた施用量】(kg/10a)

| 成分 | 基肥 | 起生期 | 幼穂形成期 | 止葉期 | 開花期以降 |
|-----|----|-----|-------|-----|-------|
| 窒素 | | | | | |
| リン酸 | | | | | |
| カリ | | | | | |
| 苦土 | | | | | |

※反収が kg の場合を想定しています(地帯区分の平均反収より算出)

※速効性窒素は最低でも kg/10aは確保してください。

【施肥例】

| 銘柄 | 施用量(kg/10a) | 商品説明 |
|----|-------------|------|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

【施肥設計コメント】

| |
|--|
| |
|--|

※分析の基準値・分析値に基づいた施用量は「北海道施肥ガイド2015」に準拠しています。

【分析値に基づいた施用量】

北海道施肥ガイド2015に準拠した施用量を出します(施肥ガイド内に記載のない作物に関しては空欄です)

【施肥例】

弊社おすすめ肥料、土壌改良材を用いた例をご紹介します。様々な状況を鑑みた上で、上記の施用量と少々異なる施用量をご提案する場合があります。

【施肥設計コメント】

施肥例の補足です。